

鹿児島高専では、本校に所属する留学生が日本文化への理解を深めることを目的とした研修旅行を毎年実施しています。令和4年度の研修旅行は、福添孝明国際交流委員が引率し、留学生8名（マレーシア出身4名、モンゴル出身1名、カンボジア出身2名）と留学生チューターの日本人学生3名が参加しました。

以下、参加者へアンケートを行ない、印象に残っていることや良い経験になったと思うことについて引用しています（原文儘）。

- いろいろ見て楽しくて、日本の文化をわかっていい経験になった。
- 海の景色が美しかったです
- 海の近くにある神社への参拝は素晴らしい経験でした。景色が綺麗で爽快でした。
- 留学生と一緒に城跡と城下町を回ること自分自身でも日本の文化を勉強できて楽しかった。
- 飫肥の町観光です。初めて行った場所で、史料館を見学したり、四半的射場の体験ができたり、街なかをマップを使いながら歩きながら観光できたことがいい経験になりました！
- 留学生の中でもあまり出かけたりすることはないので、この研修旅行で、仲良くなったと思います。日本の文化もたくさん勉強になりました。
- 面白い日本の文化が勉強になって、snsでこの経験を友達にシェア出来る
- 今まで行ったこともないところに留学生と行くことができるとてもいい経験になりました。日本の文化を留学生と一緒に知り、共有することができてよかったです。特に鶴戸神宮に訪れることができてとてもいい経験になりました

研修旅行の様子については以下の通りです。

実施日：令和4年11月5日（土）、移動手段：借り上げバス



借り上げバスにて移動開始、集合写真撮影時のみマスクを外してもらっています。



最初の訪問地は、飢肥城下町です。体験しているのは「四半的」と呼ばれる日南地方に戦国時代から伝わる娯楽性の高い弓競技で、弓道に比べて全体的に小ぶりになっています。師範代から弾き方を教わっていますが、飛ばす事が精一杯の様子でした。



飢肥城は当時の城壁などが残っており、城の様子を伺える文化研修に向けた箇所です。中には令和4年3月にリニューアルした資料館があり、立体地形図にプロジェクションマッピングされた資料が見られる最新の展示コーナーを食い入るように見学していました。



「松尾の丸」と呼ばれる御殿の「御座の間」では、屋敷の主人気分記念撮影が行えました。また、縁側で癒やされる様子を撮影して欲しいと言っており、日本家屋の良さを感じて

いる様子でした。



九州の小京都と呼ばれる「飫肥城下町」は歴史的な建造物が点在していますが、訪問した日から「DENKEN WEEK 2022 (伝統的建造物)」というイベントが始まっており、各所で気鋭の美術家が作品を構築し、文化に加えて芸術も楽しめました。城下町散策後は、疲れた様子でソフトクリームを頬張っていました。



当日の天気の良さが分かる鶴戸神宮の神門です。文化研修ですので、「手水の作法」から体験してもらいます。なおコロナ渦のため、やや簡略化（柄杓が無いなど）されています。



洞窟内に「御本殿」があります。お参りを済ませた後で、授与所にて運玉を受けます。



五つある運玉を、女性は右手、男性は左手で「霊石亀石」上にある窪みに投げ入れれば、願いが叶うそうです。なお、引率者は5投目にて窪みの標縄内に入ったことを申し添えます。



最後に「堀切峠」から青島神社や宮崎空港方面の風景を楽しみました。